

2010 年度 関西学院中学部 学校評価を終えて

関西学院では、学校教育法の改正を契機として初等部・中学部・高等部が互いに連携をとりながら整合性のとれた学校評価（以下、自己点検・評価）を実施する制度を構築しております。

2010 年度は、評価項目として「教育課程・学習指導」「生徒指導」「安全管理」「組織運営」「保護者・地域住民との連携」を選び、さらに独自項目として「キリスト教主義教育の実践」「特色ある教育の実践」を加えて実施しました。実施にあたっては、それぞれの評価項目について生徒・保護者・教員のご意見を伺うためにアンケートを行い、客観性も確保しました。

回答いただきましたアンケートの結果を集計し、分析したものを参考に、自己点検・評価結果をまとめ、今年度は教職教育研究センター教員、初等部長、高等部長、評価情報分析室教員による学校関係者評価を受けました。自己点検・評価、学校関係者評価、学校関係者評価を受けての追加記述までが関西学院評価推進委員会（2011年3月25日）において承認されましたのでWEB サイト上で公表いたします。

関西学院中学部は自己点検・評価を通じて自らその課題を探り、その課題に誠実に向き合って改善することによって質の高い教育活動等を生徒に提供し、また、その結果を社会に公表することによって信頼を高め、課題意識を共有していく所存であります。

次頁以降に2010年度中学部自己点検・評価結果、学校関係者評価、学校関係者評価を受けての追加記述を項目別にまとめたものを記しました。

今後とも、各部門において改善に努めていく所存ですので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

2011年3月25日

関西学院中学部
部長 安田 栄三

学校評価シート

【教育課程・学習指導】

現状の説明

学習指導要領改訂に対応しつつ、中学部の教育目標に適合するよう 2012 年度からの教育課程の改訂を行った。限られた授業時数の中、各教科が効果的に基礎学力の定着と、発展的内容の習得という双方の要求を充足できるよう、さらなる教授法の研究が求められている。またその前提として、客観的な生徒の学力を把握することが求められる。そのために、英語以外の教科でも外部試験導入の可能性についても昨年度に引き続き検討している。

加えて、補習等については適宜行われる数学、英語の特別講座、夏期休暇中の学習指導会の他は、各教科の裁量に委ねられている部分が多いが、今後、制度的に実施できるよう検討を行っている。

評価・分析（アンケート結果を含む）

昨年同様、学校生活全般に対する保護者、生徒の満足度は高い。しかし、生徒、保護者共に学力を十分に伸ばしているかについては、保護者は概ね肯定的な評価（約 74%）であるのに対して、生徒は肯定的評価が 56%と低い評価となっている。また、生徒からは授業法に対する工夫、土曜講座の意義についてもやや低い評価となっている。

高等部との連携に関しては、教員の大部分（80%）が不十分であると評価し、また保護者の多く（68.5%）も高等部に関する情報提供が不十分であると評価している。

上記の通り、昨年度と概ね同様の評価がなされている。課題に対する継続的な取り組みが求められている。

改善の具体的方策

生徒に対しては学習目標を明確に示し、その達成度も適宜フィードバックしながら、学力の向上を実感させつつ、意欲的に更に高い目標に向かって努力するための動機付けを行う必要がある。

また、学力保証の観点から、躓きある生徒に対し、制度的、組織的な補習等の手段を少なくとも教育課程改訂の 2012 年度までに構築の検討を行う。

高等部とは教科間、分掌間の連携を密にし、具体的な一貫教育のあり方を明確化し、その実施を推進する。その上で、生徒・保護者に対して高等部に関する情報提供を行う。

学校関係者による評価

○アンケートの評価結果を見ると概ね良好ですが、いくつかの点で問題も見られます。「評価・分析」の記述にもありますが、生徒の「自分の学力は伸びている」の平均値が 2.6 と低く、保護者からの評価も低いことは気がかりです。今後は、英語以外の教科でも外部試験等を導入することで、生徒が自分の学力を客観的に知ることができる機会を設定し、学習への自覚を促し、動機づけを図ることもその方法の一つでしょう。

もう一点は、教員と保護者ともに、高等部との連携に関する評価が低いことです。保護者に対する広報活動ももちろん大切ですが、その前提として教科間、分掌間にとどまらず、学校全体として連携を密にすることが今後の課題と言えます。それは、今後起こるであろう初等部との関係においても同じです。

○学習指導要領改訂に対応し、2012 年度からの教育課程の改訂を行い、各教科が効果的に基礎学力の定着と、発展的内容の習得という双方の要求を充足し、授業方法の改善に取り組んでいる点では、満足すべき水準と思われます。

○客観的な生徒の学力の把握をめざし、多くの試みにも着手しようとしている点は評価され

ます。授業の改善は、教師にとって日々の課題であり、土曜講座の充実も含め、「わかりやすい授業」をめざし、教員の協力のもと取り組みを続けて欲しい。

- 改善の具体的方策として、達成度を適宜フィードバックさせることは有効です。特に定着度の低い生徒に対して、教科・科目ごとにより詳しく自身の弱点がどこにあるかが分かるフィードバックが示されると克服への動機づけにもつながっていきます。躓きのある生徒に対する学校の対応方法が2012年度までに検討されることにより目標が実現に向かっていきます。
- 高等部との教科間、分掌間のそれぞれの連携の流れに初等部との連携が加わることにより、目標の一貫性がさらに実現することになります。情報の伝達は校舎が隣接する中高の場合でも難しい点があることを考えるなら、なおさら初等部との情報交換のあり方を模索することが一層の連携を具体的に考える上で参考になると思われます。
- 学校生活全般に対する保護者、生徒の満足度は非常に高いです。しかし、それに反して、アンケート結果を見ると「学力を伸ばしているか」という質問については、生徒の評価が56%となっています。これまで同様に、今後さらに授業法に対する工夫や、土曜講座の意義に関して検討を重ねていく必要があります。
- 「改善の具体的方策」にも書かれていますように、学習目標を明確に示し、それに向かって努力するための動機付けを行う必要性を感じました。受験校ではない中学部で、生徒たちに向けて勉強する動機を意識付けることには、今後とも研究を重ねていくことを期待しています。
- 生徒の学力把握、学力向上について、さらに工夫と努力が期待されるように思われます。というのは、保護者が体力を適正に伸ばすことについては高く評価しているものの、学力を適正に伸ばすについてそれより低い評価しか与えていないように思われるからです。高等部との連携及び高等部についての情報の提供について改善が期待されます。
- 「学力を十分に伸ばしているか」「授業法に対する工夫」に関連する質問において教員と生徒との間での評価に差があります。具体的な理由を見だし、改善に取り組まれることが望まれます。
- 中高との連携に関しては、高等部教員で適切に連携を図っていると肯定的に答えたのは42.5%ですが、中学部教員では20%と半数にもおおよびません。その評価のギャップが気になります。そして、高等部に関する情報提供が不十分であることや適切に連携をはかっている点など、いつまでにどのように改善するか目標がないと改善が進まないのではと思います。

学校関係者による評価を受けての追加記述

- 生徒、保護者が自分の学力向上について実感できていないという点につき、今後の改善策としては、英語で導入している外部試験を、2012年度入学生から国語、数学にも導入し、三年間での学力推移を生徒、保護者に示すよう考慮中である。また、社会、理科に関しても、三教科での状況を見ながら、導入の可否を判断する。学校の枠を超えた学力を明確に示すことにより、生徒の意識も変化すると思われるし、教員側の授業成果の自己評価にも直結する。
- 中学部・高等部の情報に関しては、双方がお互いの情報を今以上に共有する必要があり、今後そのような場がさらに持てるよう、高等部とも協議していく。
- 高中の組織的連携については、2015年度の両部共学化までに、段階的に検討中である。ただ、高中では対象の学年や生徒数も大きく異なるので、これまで培ってきた双方の独自性も失うことのないよう、積極的な統合を行うべき部面と、そうでない部面を整理し、両部の教職員がその認識を共有しなければならない。高中部長室委員会、高中部教学協議会、

高中部将来構想委員会等で、その精査を行っていく。また、教員人事交流を積極的に行い、教員が主体的に両部の課題を実感できるようにする。

学校評価シート

【生徒指導】

現状の説明

挨拶、時間厳守、身だしなみなど基本的社会マナーについては、指導の重点項目としている。美化については、クラス内当番制によりホームルーム教室とその周辺を日々清掃し、3学期末には大掃除を実施しているほか、「地域奉仕活動」として、登下校路の清掃活動を定期的に行っている。また、生徒会の諸活動を中心に自主自律精神の育成を目指している。生徒の問題行動に対しては、「迅速・適切」を常に心がけながら、当該学年団と生徒指導部が密に連携しながら対応している。

評価・分析（アンケート結果を含む）

基本的社会マナーについて、教員のアンケートでは「挨拶や時間厳守などの基本的社会マナーを身につけさせている」の問いに肯定的回答が96%だったのに対し、「整理整頓や環境美化に努めさせている」の問いでは肯定的回答が昨年度の84%から64%に下がった。男子校特有の結果という解釈もできるが、教室の美化意識については、今後教員全体で取り組むべき課題であることを示している。

自主自律の精神の育成について教職員の評価より生徒の評価がやや低く出たのは、生徒が自ら考え行動している実感を得ていないためと思われる。それでも生徒の評価が昨年より6ポイント上がっているのは生徒会の諸活動が充実していた結果と考えられる。

また全体的に、教員の評価に比して生徒・保護者の評価が低く出た。それは、教員が生徒集団全体の中で問題を捉えやすいのに対し、生徒・保護者は他者の情報を得にくい分、個人レベルでの評価をせざるを得ないということと、教員が捉え切れていない事柄があると解釈できる。しかし、生徒の問題行動への対応について教員・生徒の評価が昨年より上がったことを考えると、教員同士および生徒・保護者との緊密なコミュニケーションを図ってきた成果があったといえる。

改善の具体的方策

美化意識については、最も身近な教室の美化に気を配れるよう全教員で意識喚起を行う。自主自律の精神の育成には、HRや生徒会活動を通して、生徒自らが考え、行動できるような取り組みを行っていく。問題行動への対応については、教員が生徒・保護者とさらに緊密なコミュニケーションをとることによって情報を共有し、両者の共通認識をより高めていく。

学校関係者による評価

- 「評価・分析」の項でも指摘されているように、問題は教員の「整理整頓や環境美化に努めさせている」の問いに対する平均値が低いことです。公立学校では学級担任が掃除に加わり、率先して掃除を行っている場合もあります（常にではありませんが）。放課後も多忙であるとは思いますが、学年や学期の変わり目には、一緒に掃除に参加し、生徒の行動を観察すると、平素見えなかった生徒の側面も見えてくるのではないのでしょうか。その他は概ね良好と思われます。
- 生徒指導の項目を全体的に概観すると、満足すべき水準には達していると思われませんが、やはり、もう少し努力、工夫が求められる点も、生徒へのアンケート調査結果に見られます。特に、2年次の生徒の得点が1、3年次の生徒に比べて低く、発達段階の特徴に即して、いっそうの指導上の工夫が求められます。
- 生徒の基本的社会マナーについて、外部の高い評価が出ているのは生徒の自校に対する誇

りから出ていると考えられます。そのようにあるべきだと、強いられてそうあるのではなく、生徒自身のそうありたいという意識が日頃より培われていることにより成果が出ています。

- 美化意識について、中学部では具体的にどのようなことが課題であり、また改善の具体的方策であるのかを、初等部においても知りたいところです。そして中学生には具体的にどのような指導がなされているのかを知ることによって、中学部に児童を送る初等部の、中学部との連携の参考となると思われます。
- 基本的社会マナーについて、教員のアンケートでは、「挨拶や時間厳守などの基本的な社会マナーを身につけさせている」の項目について、肯定的な回答が96%とあり、中学部全体で取り組んでいることを高く評価します。
しかし同時に「整理整頓や環境美化に努めている」の問いで、肯定的な回答が昨年度の84%から今年度64%に下がった原因をしっかりと考え、今後教員全体の課題の一つとして取り組んでいくことを期待しています。
- 基本的社会マナー及び自主性の涵養については、保護者、生徒からも積極的な評価がかなりあるように思われます。それに対して、問題行動への対応について、教員と、保護者・生徒との間で評価に差があり、保護者・生徒の間で十分でないと思っている人たちが見られるのは気にかかります。
- 問題行動への対応に関し、教員の評価（肯定的回答が100%）と生徒・保護者の回答のギャップが気になります。その事を捉え、改善の具体的方策で示されている緊密なコミュニケーションを期待いたします。

学校関係者による評価を受けての追加記述

- 美化意識については、掃除がおろそかであったというのではなく、できるだけゴミを出さない、落ちているゴミは進んで拾う、常に黒板は美しく保つ等の、そのときそのときの細やかな美化意識の定着が不十分であるという認識である。今後、生徒会の風紀美化部長を中心に細やかな美化意識の向上と定着がなされるような仕組み作りや、生徒の日番業務の徹底等が必要であると考えている。
- 問題行動の対応に関しては、対応そのものは公に出来ないことが多く、どのように対応したかを知っている教員とあまり情報のない生徒や保護者との間にある程度のギャップはあるものとする。しかしその開きが大きくなるように、クラス集会や担任が行っている面談等での情報が今以上に上手く共有出来るようなかたちを作っていくことが必要だと考える。

学校評価シート

【安全管理】

現状の説明

自然災害・火災、新型ウイルスによる感染症、交通事故、不審者による殺傷事件など様々な災害や被害が増加している社会にあって、学校として生徒の安全を十二分に確保する対策が求められている。自然災害・火災対策として消防署協力による防災避難訓練、新型ウイルスによる感染症対策として、関係機関との密接な連携を行いながら、日常のうがいや消毒液による手洗い励行の指導、交通事故対策として登下校指導、不審者対策として警備員による校内見回り、防犯カメラ・ベルの設置、関係機関への通報システムの整備など必要な措置を取っている。また、2010年度から携帯電話による緊急メールシステムを導入し、活用を開始している。

評価・分析（アンケート結果を含む）

防災対策は、教員の評価はある程度高いが、保護者・生徒の評価はまだ十分とは言えない。感染症対策は、教員・保護者の評価があったが、生徒の評価がまだ十分ではなく、今後の課題である。交通安全対策は、生徒の評価はある程度得ているが、教員・保護者はやや低い評価になった。男女共学化を控えて、今後セキュリティー強化等が課題である。

改善の具体的方策

新校舎完成に伴い、防災対策として新たな避難場所及び避難ルートを確定して、生徒の安全確保を行う予定である。感染症対策として、生徒に対する感染症予防の認識を高める指導を検討する。交通安全対策は、通学路の安全対策を進めるとともに、登下校時の安全確保や生徒の交通安全に対する認識をさらに高めるよう指導方法を検討する。不審者対策として、男女共学化に向けて学校敷地に無断で部外者が侵入しないよう敷地周囲をフェンス等で囲い、門衛所も増やす予定である。

学校関係者による評価

- 保護者が子どもの安全管理に過敏であるのは当然としても、他の面にくらべ、全般的に評価が低いことが気がかりです。「改善の具体的方策」で述べられていることを、今後確実に進めていくことを期待します。
- 安全管理に関しては、一般的には、生徒の生命に関わる問題であり、最善というレベルはありません。いかに中学部として不断に安全管理に力を注いでいるかが問われています。現在、取り組んでいる、防災対策、感染症対策、交通安全対策、不審者対策等と一定の成果を上げているが、今後とも、どれひとつおろそかにできないものであり、中学部として不断に指導の充実を目ざして、努力を求められるでしょう。
- 高等部同様に2010年度から導入されている「携帯電話による緊急メールシステム」は、初等部においても導入されています。的確な情報がすばやく同時に配信されることにより、保護者の意識の高まりが期待できる。初等部、中学部、高等部として一貫した実践となります。
- 不審者の侵入に対して、学校は閉鎖的にならざるを得ない面はありますが、訪問者へのIDカードと外来者への日頃からの声かけ（あいさつ）が生かされることにより目標が実現に向かっていきます。
- 自然災害、火災対策、交通事故対策、また新型ウイルスによる感染症対策等について、しっかりとした指導がされていること、また警備員による校内見回り、防犯カメラや防犯ベルの設置等の対策がされていることは高く評価できます。

その対策をこれからも向上させ、突然訪れる可能性のある災害等に備える姿勢を継続することを心から望んでいます。

- 防災、感染症対策はさらに着実な準備をしておくが良いと思います。交通安全は毎日のことであり、さらに関心を高めるのが望まれるように思います。不審者対策については、教員、保護者、生徒の三者とも関心が高く、来年度からの男女共学を控え、一層の検討が望まれます。
- 様々な安全管理に関する対応を実施されていることを評価します。
- 学校を取り巻くリスク要因は多様にあるかと思います。危機管理マニュアルの作成を通じ、その洗い出しと評価、対策、そして学内体制を構築することを検討されればいかがでしょうか。
- 男女共学化に向けた安全管理に関する研修も必要ではと思われます。

学校関係者による評価を受けての追加記述

- 安全管理の目的は、中学部の理念とする教育を行うために、生徒の生命を守ることにあり、そのための対策をいかに適切に行っているかであると考えている。ご指摘にあるように、安全管理に関してどういった対策が最善かを判断することは非常に難しい。既にある危機管理マニュアルに関しても、万一の場合にそれを有効に活用できるよう、教員が安全に対する高い意識を持つことが重要であると認識している。また、教員だけでなく保護者や生徒の意見を聞いたり、初等部、高等部、学院の関係部署との情報交換や講習会、研修会などを行ってさらに安全管理面の強化を進めていくことを検討する。

学校評価シート

【組織運営】

現状の説明

中学部の内部組織には、狭義の校務分掌である専門部会として、教務部・生徒指導部・PTA校友部の三つの部会があり、週に一度の定期会議を開催している。各部会の傘下には各種委員会があり必要に応じて不定期の会合を持っている。さらに、人権教育推進のため人権教育委員会も別途組織されている。

また部長室委員会（部長、副部長、宗教主事、専門部会長、学年主任、事務長で構成）が週に一度開催され、中学部における中央審議機関の役割を果たしている。その傘下にある各種委員会も、必要に応じて不定期に開かれている。

上記の専門部会・部長室委員会にクラス・ハウス担任団系列を加えた三つで、広義の校務分掌を構成している。

会議体としては上記の諸会議体に加えて、専任教員が構成メンバーである教師会が週に一度定期的に開催され、それが中学部の最終的意志決定機関となっている。

組織運営のソフト面として、職務指示系統、また、昨今その重要性を増してきている個人情報管理も組織運営面の評価項目に加えている。

評価・分析（アンケート結果を含む）

教員から回答を得た全ての項目が平均値（2.5）を大きく上回った中であって、校務分掌の設定や人員配置、分掌間の連携、さらには職務指示系統が、相対的に低い自己評価（2.6～2.8）となった。現在進行中の増改築、2012年度に始まる共学化と初等部からの受け入れや定員増といった変革期にあたり、その変革の成功を一層確かなものとするために、組織運営のさらなる適切化と効率化を多くの教員が望んでいる結果であると受け止める。また、意志決定の迅速さや業務遂行の確実性が以前にも増して必要な時期でもあり、職務指示系統の明確化を求める声が反映されたと考える。

会議体に関しては概ね良好な自己評価が出たが、上記の状況に鑑み、さらに適切で効率的な運営が求められる。

個人情報の管理には、相対的に低い結果（2.6～2.8）が出た。生徒・保護者や教職員の個人情報漏洩したり悪用された事例は把握しておらず、早急な改善が必要とは考えないが、さらに厳重な管理を求める声として解釈できる。

改善の具体的方策

2011年度の校務分掌の設定はこれまでのものを踏襲したが、分掌内の人員配置に関しては2012年度からの変化を見越して配慮を加えた。

今後の改善策としては、変革の成功をさらに確かなものとするために、

- ①2012年度の分掌設定そのものに関して、部長室委員会を中心に早急に検討を始めること、
 - ②同様に、2012年度の人員配置の検討を始めること、
 - ③職務指示系統を整理・明確化し、必要な指示が適切・迅速に行われるようにすること、
 - ④教員の（身体的健康のみならず）メンタルヘルスの観点からも、各教員の業務実態に関して管理職による個人からの聞き取りを強化すること、
- の四点を挙げる。

学校関係者による評価

- 「職員会議・委員会等運営状況」については概ね良好な評価であるが、「校務分掌」については問題も残ります。「学校業務に応じた適切な分掌設定」、「分掌に応じた適切な人員

- 配置]、「分掌間での連携」、「職務指示系統の明確化」等について、今後「改善の具体的方策」で述べられているような対策が確実に進められ、効果を発揮することを期待します。
- 組織運営の各分野の自己評価を行い、改善の課題を明確化し、取り組みを行っていることに関して、評価します。
 - それぞれの部署において、学校としての改善の具体的方策（①、②、③、④）が検討され出していることにより目標が実現に向かっていきます。
 - 「改善の具体的方策」にあるように、2012年度の男女共学、定員増に向けて、組織運営がよりよい成功に至るための計画、実行が行われ、中学部全体がより良くなっていくことを望みます。
 - 今回、組織運営を評価項目に選んだことは、教員の間での評価を知ることができるという点で良かったように思います。そして、教員の間でかなりの問題意識があるようであり、具体的な改善が期待されているように思います。難しい課題とされますので、よく検討することが期待されます。個人情報管理についても、かなりの問題関心が見られます。一層の整備が期待されます。
 - 事務組織に関する評価はいかがでしょうか。
 - 個人情報管理はリスクマネジメントの話ではないでしょうか。学校評価シートでは、安全管理に含まれるのではと思われま。が、低い結果が出ていることは問題だと思われま。し、漏洩したり悪用された事例は無いからと言って、早急な改善が必要とは思えないということも問題ではと思われま。意地悪く考えれば問題が生じたら対応を取るのかということになりますので、万一のことが発生しないように、改善の具体的方策を検討する必要はないのでしょうか。
 - 共学化と初等部からの受け入れ、定員増という変革期にあたり、組織運営はますます重要となってきます。明確な目標を設定することは困難では思われま。が、具体的な改善方策を立てられることを期待します。

学校関係者による評価を受けての追加記述

- 事務組織は関西学院全体の事務人事の中での位置づけとなっており、事務組織自体に対しては、教員による評価はなじまないものがあつた。ただし事務側と教員側（広い文脈では、経営と教学）の間の連携は、学校が適切に運営されていく上での必須事項であると考えられるので、次回、組織運営を評価する際に、その連携の評価を項目に加えることを検討する。
- 個人情報管理に関する改善の具体的方策の検討について、「万が一のことが発生しないように」というご指摘はもっともなものと受けとめる。現在は、名簿など個人情報が記載されているものの管理を毎年厳重化しており、今後、教員にもさらに個人情報の厳重管理に関して周知徹底するような方策を考慮する。
- 組織運営の明確な目標設定については、上記の「評価・分析」の項目でも記したように「組織運営のさらなる適切化と効率化」、「意志決定の迅速さ」、「業務遂行の確実性」、さらには、「職務指示系統の明確化」の4点を当面の目標とする。

学校評価シート

【保護者・地域住民との連携】

現状の説明

保護者との連携では、幹事長を中心に、五役、常任幹事、地区幹事（クラス幹事を兼ねる）からなるPTA組織があり、各委員は、例年11月に行われる次年度幹事選挙を通して選出されている。新入生の幹事については、4月のPTAクラス集会にて、各クラスから選出され、クラス幹事・地区幹事として活動に参加している。

PTAの活動内容の中心は、全校行事のサポートとして体育大会、文化祭での弁当等の販売や、春と秋に行われる地区懇親会の開催、制服リサイクル活動などである。これらの準備のため、年5回の常任幹事会、幹事会を開催しており、五役会も適宜開催している。

その他にも、PTA聖書を学ぶ会・PTA文庫・PTAだより、などの組織が独自の活動を展開している。

また、年4回開催されるPTA集会（全校、学年、クラス）、や担任面談、クラス・クラブ懇談会等を通して、保護者と担任やクラブ顧問との親睦を深めている。

地域住民との連携では、甲東・上ヶ原両地区青少年愛護協議会の会合への参加により、地域住民の声を学校運営に反映させたり、地域奉仕活動として、登校路の清掃活動を行っている。

評価・分析（アンケート結果を含む）

保護者との連携では、行事などへの参加協力、幹事会等の会議・クラス担任との面談・クラス懇談会等の開催については、教職員、保護者共に、概ね高い評価を得ている。これは、幹事会やPTA集会、クラス・クラブ懇談会等が適宜行われ、学校とPTAとのつながりが密にできているためだと考えられる。

地域住民からの苦情やその対応については、教員の評価よりも保護者の評価が低い結果になった。これは、近年増加傾向にある地域住民からの苦情やその対応について、学校現場での状況が保護者に詳細に伝わっていないことが考えられる。

一方、教育内容に関して保護者との意見交換が行われているかについては、教職員、保護者共に、やや低い評価にとどまった。教育内容の全体的な現状を、直接保護者に伝えたり、保護者が意見を聞く機会が少ないことが原因であると考えられる。

改善の具体的方策

保護者との連携については、保護者と学校が多く時間を共有しながら、共に考え意見を出し合えるような取り組みを継続して行っていく。

地域住民との連携については、生徒指導的な問題とも関係するため、学校全体での細やかな対応を行い、情報を保護者に発信できるよう努力をしていく。

教育内容に関する意見交換については、学校全体として意見を聞き、情報を発信し、保護者と共有できるよう鋭意努力をしていく。

学校関係者による評価

○概ね良好と言えますが、一点「教育内容に関する保護者との意見交換」についての評価が、教員、保護者ともに低いのが気になります。近年、説明責任の問題から、保護者への教育内容の説明・開示等は学校の重要な課題となっています。公立学校ではオープンスクールの期日を設定し、その期間であれば保護者が自由に授業等を参観することができるようになっていきます。私学であれ、こうしたことも今後の検討課題となるのではないのでしょうか。

○保護者との連携、地域住民との連携、教育内容に関する意見交換に関して、多くの項目で

保護者から高い評価が与えられており、満足すべき水準にあると思われます。今後とも、継続して取り組んで欲しい。

- 保護者、地域に対して、対応の具体的方法は違う場合もある。学校からの説明について十分という評価は得にくいですが、その時々説明に誠意をもって行っている姿勢が目標の実現を促している。
- 中学部の保護者との連携は、以前からきめ細やかな配慮に基づいてPTAが運営されています。これからもこの運営を大切に、向上し続けることを期待します。
アンケート項目、「学校は行事などの際に、適宜PTAと協力して、これを実施している」の結果において、保護者の平均点3.5からも中学部が信頼されていることがよくわかります。今後、ますますきめ細やかな関わりを大切にしてください。
- PTAとの連携については積極的に評価されていますが、それに比べて、教育内容についての保護者との意見交換については、一層の努力が期待されていると思います。地域住民との関係については、どの程度の苦情があり、どの程度の連携を図っているかがよくわかりません。
- 保護者との連携はアンケート結果によると概ね良好な関係を築いていると判断できます。しかし、質問23「学校は、教育内容に関して保護者との意見交換を行っている」に対し、強くそう思うは13.3%であり、低いと思われます。これに関しての具体的方策として、「学校全体として意見を聞き」とありますが、まずはクラス担任が意見を聞き、学校として集約するのが筋ではと思われます。

学校関係者による評価を受けての追加記述

- 現在、共学化に向けて新校舎の建築並びに既存の校舎の改修計画が進んでいる。完成すれば、現在より教室も広くなり、また、来校した保護者が時間を過ごせるスペースも増える。これまで物理的な問題もありなかなかできなかった授業参観日やオープンスクール的な催しの設定がしやすくなることもあり、それらの現実化にむけて検討していく。
- 「地域住民からの苦情」の多くは登下校のマナーについてのものである。公に地域住民からの声を聞く機会としては地域の青少年愛護協会の会合に出席しているが、直接地域の方が個人として声を寄せてこられることも時折あり、今後、教職員による登校指導の強化を検討していく。

学校評価シート

【キリスト教主義教育の実践】

現状の説明

キリスト教主義教育は全学的な教育プログラムとして展開している。主に毎日の礼拝を通して、教職員間での理念の共有が深まり、日々の教育活動が行われている。礼拝には教員に加え、学外からも各分野から多くの説教（奨励）者を招き、講話を聴くことができる。また、生徒たちが自主的に取り組む生徒礼拝や早天礼拝等も定着している。保護者に対しても「聖書を学ぶ会」等でキリスト教主義教育に接する機会を設けている。

評価・分析（アンケート結果を含む）

中学部のキリスト教主義教育の実践について、総じて教職員のみならず生徒、保護者からの回答は評価が高かった。特に保護者からその教育活動が適切であるという評価が高いということは注目すべき点である。

改善の具体的方策

中学部の建学の精神であるキリスト教主義教育についての方向性を誤ることのないように検証しつつ、より実践的な教育活動を展開していく。また、さまざまな活動団体と連携し、生徒たちが幅広い見識を抱くためにキリスト教主義教育に関連した具体的なプログラムを計画していく。

また、2012年度からの諸変化（共学化・定員増など）に対応する礼拝形式の検討を始めているが、その最終案を早急に確定し、中学部のキリスト教主義教育の伝統を新しい環境の中で展開していく準備を進めていく。

学校関係者による評価

- この面に関しては、特に問題は見当たりません。関西学院の教育理念でもあるので、実践的な教育活動を通じてのさらなる発展を期待します。
- 取り組みを評価します。
- 中学部の長い歴史の中で培われてきたキリスト教主義教育が生徒、保護者に息づいていることで目標が実現しています。
- キリスト教主義教育の土台である礼拝を大切にしていることがよく分かります。今後とも、関西学院の根幹にあると言ってもよい礼拝をさらに向上させていくことを期待します。そして保護者に対しての「聖書を学ぶ会」の活動は今後とも内容を深め、実践していくことを期待しています。
- キリスト教主義教育については、保護者から高い評価と理解を得ており、生徒の間でも広い理解があるようであり、順調のように思います。
- 礼拝に、学外からの各分野から多くの説教（奨励）者を招き、講話をされていることは、良い取り組みだと評価します。その結果、生徒への質問 24「礼拝では学外の様々な人の話を聴くことができる」において、「強くそう思う」が 54.5%となっているかと思われます。また、生徒たちが自主的に取り組む生徒礼拝や早天礼拝も良い取り組みと評価します。が、評価では、「キリスト教主義教育の実践について、総じて教職員のみならず生徒、保護者からの回答は評価が高かった」とありますが、生徒からの評価は取り立てて高くないような気がします。

学校関係者による評価を受けての追加記述

○中学部のキリスト教主義教育の実践について、多くの学校関係者からプラスの評価を受けたことを励ましとしたい。特に生徒、保護者、教職員が、他校にはない頻度で礼拝の説教（奨励）を聴いていること自体が、中学部のキリスト教主義教育の実践の一つの展開であることを再認識できた。

学校評価シート

【特色ある教育の実践】

現状の説明

教育の根幹に「キリスト教主義・読書・英語・体育・芸術」の五本柱をすえ、日々の礼拝、授業、そして様々な活動を通して、特色ある教育を実践している。キリスト教主義教育では、聖書の教えを学ぶだけでなく、建学の精神の体得、キリスト教主義に基づく人格の形成を目指し、その他の分野では、授業を通じた学習以外にも様々な教活動の中で実践の場を設け、知徳体を総合的に育む教育を行っている。また、学校の所有するキャンプ場が二カ所あり、キャンプなどの体験学習にも力を入れている。

評価・分析（アンケート結果を含む）

どの項目とも概ね高い評価を得た。特に読書教育が今回も教員、保護者、生徒三者ともから高い評価を受けているのは、他校に先駆けて始まったこの教育の伝統に対してのものだけでなく、更に現在もなお進化しつづけていることへの支持を表している。一方、英語・体育・芸術に関しては、評価はそれぞれ高いとはいえ、体育に比べて英語と芸術のポイントがやや落ちている。英語・芸術への生徒の評価ポイントが低いのは、英語に関しては難易度の高い教科に、また芸術に関しては男子校に、それぞれよく見られる傾向であるが、さらに興味関心をひく改善策を講じていく必要がある。また英語や国際理解教育に対して保護者の評価ポイントがやや低いのは、その分野への期待の強さの表れであると取れる。

改善の具体的方策

毎年高い評価を受けている読書教育は、図書館の拡張に伴い今後も更に推進していく。英語教育に関しては、教科の授業内容レベルを落とすことなく、かつ生徒が興味関心を持てるような工夫を模索していく。国際交流・異文化への興味づけに関しては、研修旅行のような具体的な学習・交流の場を今後どうしていくのか検討を続ける。体育・芸術・キャンプなどの体験学習に関しては、共学化に向けて、新たなプログラムの展開を検討中である。

学校関係者による評価

- いくつかの項目で、教員評価と保護者・生徒評価間に差がみられ、保護者・生徒評価のほうが低いという結果も見られますが、概ね良好です。特に、若者の読書離れが指摘される今日、中学部の読書教育の意義は大きいと思われまます。英語教育に関しては、海外ばかりでなく高等部や大学との連携を深め、常態的に相互の人的交流を図ることで、生徒を刺激することができないかとも考えます。
- 近年、我が国の教育界では、特色ある教育の実践が求められています。とりわけ、私学には、この課題への取り組みは重要なことであると思われまます。こうした課題に対して、中学部では、五本柱を設定し、取り組んでいます。アンケート調査結果にもあらわれていますが、保護者、生徒からの評価も高い水準にあります。今後とも、個性ある学校づくりのために、特色ある教育の実践をいっそう深めていくことが望まれます。
- 五本の柱が具体的な施策において実現されています。今後の課題としてあげられている①国際交流・異文化への興味づけ、に関しては、研修旅行のような具体的な学習・交流の場を今後どうしていくのか検討を続けるとありますが、この検討によって目標の実現がなされます。②すべてに言えることですが共学化に向けての施策が検討され出していることにより目標の実現に向かっていきます。
- 中学部教育の根幹に「キリスト教教育、読書、英語、体育、芸術」の五本柱を据え、それぞれ充実した内容を展開していることが、今回の学校評価からはっきりと認識できます。

また特に「読書」教育は生徒や保護者に対して、素晴らしい影響を与える実践教育の一つであることは間違いありません。

その「読書」を含める五本柱の内容を深め、さらに新しいプログラムの展開を心より期待しています。

- 教育の根幹として、五本柱を立て、教育の特色を追求し、それを明らかにしているのはよいと思います。五本柱のうち、英語をのぞいては概ね高い評価を保護者、生徒からも受け、順調のように思います。英語については、一層の努力が期待されます。
- 英語に対する生徒のアンケート結果が低いと思われます。このことは、「英語・芸術への生徒の評価ポイントが低いのは、英語に関しては難易度の高い教科に、また芸術に関しては男子校に、それぞれよく見られる傾向である」と纏められておられますが、そのような具体的なデータがあるのでしょうか。
- 理科・数学教育への取り組み状況はいかがでしょう。
- 共学化に向け、特色ある教育のさらなる充実を期待いたします。

学校関係者による評価を受けての追加記述

- 中学部教育の根幹をなす5本柱の実践については概ね良好な評価を得た。今後も内容の充実に向けての取り組みを続ける。
- 国際交流に関しては、夏休みに3年生対象に行っているインド親善訪問旅行のほかに日常の英語授業を通じて複数のネイティブ教員と交わるなかで意識づけをしているが、指摘のように人的には今後学内の各部署との連携の可能性も模索していく。
- 「英語・芸術」についてのまとめは、他校との交流・情報交換のなかでの認識であり、データに基づいたものではないので、この教科に関しては引き続き検証していく。
- 理科教育に関しては、出来るだけ実験などを通して本物にふれる機会を取り入れることを心がけている。現在行っている土曜日自由研究選択講座の中には「物理化学実験」「生物学実験」という講座も設けており、いずれも募集定員を越える応募がある人気講座となっている。

2010年度 学校評価アンケート結果一覧表（中学部）

共通 / 独自	大項目	小項目	目標	アンケート					
				教職員用	平均点	保護者用	平均点	生徒用	平均点
共通	学校全般 (追加項目)			—	—	1. 生徒は楽しんで学校に行っている。 2. 中学部の教育に満足している。	3.6 3.3	1. 学校に行くのが楽しい。 2. 中学部の教育に満足している。	3.2 3.1
共通	1. 教育課程・ 学習指導	(1) 教育課程についての教員間の共通理解と連携	教員による教育課程の全体像の理解	1. 教員は、教育課程の全体像を理解している。	3.0	3. 学校が提供しているカリキュラム（選択授業を含む）は適切である。	3.2	—	—
			教育課程についての教務部を中心とした教員間の連携	2. 教員は、教務部を中心として教育課程の編成や実施について連携を図っている。	3.0	—	—	—	—
			—	—	—	—	—	—	—
		(2) 児童生徒の学力・体力の的確な把握	外部テスト導入などを通じた学力のより客観的な把握	3. 教員は、外部テスト導入などにより、客観的な学力把握に努めている。	2.5	—	—	—	—
			教員による学力評価についての理解向上	4. 教員は、生徒の学力・体力評価についての理解向上に努めている。	3.2	4. 学校は、生徒の学力を適正に評価している。	3.2	3. 学校は、自分の学力を正しくつかんでくれている。	2.9
			教員による体力評価についての理解向上	—	—	5. 学校は、生徒の体力を適正に評価している。	3.2	4. 学校は、自分の体力を正しくつかんでくれている。	3.1
		(3) 各教科の特性に応じた授業の工夫	教員自身による担当教科の特性の理解	5. 教員は、自らが担当する教科の特性を理解している。	3.5	—	—	—	—
			より質の高い授業を目指しての教員による不断の研究	6. 教員は、質の高い授業を目指して、授業研究を不断に行っている。	3.2	6. 学校は、生徒の学力を適正に伸ばしている。	2.9	5. 自分の学力は伸びている。	2.6
			授業研究の成果を活かしての授業への不断の創意工夫	7. 教員は、授業研究の成果を活かし、授業の創意工夫を行っている。	3.3	7. 学校は、生徒の体力を適正に伸ばしている。	3.3	6. 授業はさまざまな工夫が加えられていて分かりやすい。	2.8
		(4) 個々のニーズや興味関心に応じた授業展開	知的好奇心の喚起に留意した授業の展開	8. 教員は、知的好奇心の喚起に留意した授業を行っている。	3.1	—	—	—	—
			学齢に応じた選択授業の展開	9. 学校は、学齢に応じた選択授業を展開している。	3.0	3. 学校が提供しているカリキュラム（選択授業を含む）は適切である。	3.2	7. 土曜講座は有意義である。	2.7
			補習など特別な学習機会の提供	10. 学校は、必要に応じて補習など特別な学習機会を提供している。	3.0	8. 学校は、補習など特別な学習機会を適切に提供している。	2.8	8. 勉強でつまずいた時、補習などの機会がある。	3.1

2010年度 学校評価アンケート結果一覧表（中学部）

共通 / 独自	大項目	小項目	目標	アンケート					
				教職員用	平均点	保護者用	平均点	生徒用	平均点
共通	(5) 接続学部との連携	初等部と中学部との連携	—	—	—	—	—	—	—
		中学部と高等部との連携	11. 中学部は、高等部と適切に連携をはかっている。	2.0	9. 学校は、関西学院高等部に関する情報を適切に提供している。	2.2	—	—	
		高等部と大学との連携	—	—	—	—	—	—	
		(6) 課外活動の充実	児童会・生徒会などの自治活動の充実	12. 学校は、生徒会などの自治活動が生徒によって盛んに行われるように配慮している。	3.3	10. 学校は、学級活動やクラブ活動を通じて生徒の自主自律の精神を育成している。	3.2	9. 自分たちの手でホームルームや生徒会などの自治活動を行っている。	2.9
			クラブ活動など課外活動の充実	13. 中学部は、クラブ活動など課外活動が充実している。	3.6	11. 学校は、充実した課外活動（クラブ活動など）を提供している。	3.2	10. 課外活動（クラブ活動など）が充実している。	3.4
			課外活動が正課（学習）を妨げないことの徹底	14. 学校は、生徒が学業と課外活動を両立できるように配慮している。	3.0	12. 学校は、生徒が学業とクラブ活動を両立できるような環境の整備に努めている。	3.2	11. 学業とクラブ活動が両立できる環境にある。	3.0
	(1) 基本的生活習慣の確立	挨拶や時間厳守などの基本的社会マナーの指導	15. 学校は、挨拶や時間厳守などの基本的社会マナーを生徒に身につけさせている。	3.4	13. 学校は、生徒に基本的社会マナー（挨拶、時間厳守、整理整頓、環境美化など）を身につけさせている。	3.2	12. 学校は、あいさつ、時間厳守、整理整頓、環境美化などの基本的社会マナーを身につけさせている。	3.3	
		整理整頓や環境美化の指導	16. 学校は、生徒に整理整頓や環境美化に努めさせている。	2.8					
	(2) 自主自律の精神の育成	HR（学級活動）における自主自律の精神の育成	17. クラス担任は、学級活動において生徒の自主自律の精神の育成に努めている。	3.0	14. 学校は、生徒の自主自律の精神を育成している。	3.2	9. 自分たちの手でホームルーム、生徒会、自治活動を行っている。	2.9	
		学校行事における班活動などを通して自主自律の精神の育成	18. 教員は、学校行事における班活動などを通して生徒の自主自律の精神の育成に努めている。	3.2					
		生徒会活動における自主自律の精神の育成	—	—					
	(3) 問題行動への対応	児童生徒の問題への対応についての教員間での共通理解	19. 生徒の問題への対応について教員間で共通理解がある。	3.4	15. 学校は、生徒の問題行動などについて適切に対応している。	2.9	13. 学校は、自分たちの行動に問題があれば、適切に対応している。	3.1	
児童生徒の問題行動の早期発見		20. 教員は、生徒の問題行動を早期に発見しようと努めている。	3.5						
問題行動に対しての適切な指導・訓戒		21. 教員は、生徒の問題行動に対して適切な指導・訓戒・事後ケアを行っている。	3.4						
教員間・保護者との間での問題行動に関する情報交換・連携		22. 教員は、生徒の問題行動などに関して保護者との情報交換・連携を適切に行っている。	3.4	—					—

2010年度 学校評価アンケート結果一覧表（中学部）

共通 / 独自	大項目	小項目	目標	アンケート					
				教職員用	平均点	保護者用	平均点	生徒用	平均点
共通	5. 安全管理	(1) 危機管理	災害への対策	23. 学校は、防災避難訓練を実施している。	3.3	16. 学校は、生徒の安全確保のため防災避難訓練を実施している。	2.7	14. 学校は、防災避難訓練を実施している。	2.5
			感染症に対する予防・対策	24. 学校は、感染症への予防・対策を適切に行っている。	3.2	17. 学校は、インフルエンザ等感染症への予防・対策を適切に行っている。	2.9	15. 学校は、インフルエンザ等感染症への予防・対策を適切に行っている。	2.7
			不審者対応についての環境整備	25. 学校は、不審者対応マニュアルを作成し、不審者侵入等への防止設備を設置している。	2.5	18. 学校は、生徒の安全確保のため不審者に対する防犯ベルや防犯カメラを設置している。	2.6	16. 学校は、生徒の安全確保のため不審者侵入に対する防犯ベルや防犯カメラを設置している。	3.0
		(2) 交通安全管理	交通安全に関する教員間での共通理解	26. 教員は、生徒の交通安全に関して共通の理解をしている。	2.6	—	—	—	—
			交通安全についての指導	27. 教員は、生徒に対して適切な交通安全指導を行っている。	2.6	19. 学校は、生徒に対して適切な交通安全指導を行っている。	2.8	17. 学校は、生徒に対して適切な交通安全指導を行っている。	3.0
		独自	組織運営	(1) 校務分掌	適切な校務分掌の設定	28. 学校業務に応じて校務分掌が適切に設定されている。	2.8	20. 教員は、適切に役割分担をして、学校を効率よく運営している。	3.1
適切な校務分掌の人員配置	29. 分掌に応じて適切な人員が配置されている。				2.7				
指示系統と分掌間の連携	30. 職務指示系統が明確に定められている。				2.6				
	31. 分掌間での連携が円滑に行われている。				2.8				
(2) 職員会議・委員会等の運営状況	教師会の議決機関としての機能			32. 教師会は十分な審議に基づいた決議をなし、議決機関として機能している。	3.0	—	—	—	—
				33. 教師会や委員会は必要に応じて適切に開催されている。	3.2				
	教師会や委員会の適切な開催			34. 不必要な会議が行われていない。	3.0				
会議の情報の共有	35. 全体会以外での委員会等の審議事項について、情報が教員間で共有されている。			2.8					
(3) 各種文書や個人情報等学校が保有する情報の管理状況	個人情報に関する意識の徹底			36. 個人情報の重要性について、全教職員が意識している。	2.8	21. 学校は、個人情報が不適切に利用されないよう、厳重に扱っている。	3.1	19. 学校は、個人情報が不適切に利用されないよう、厳重に扱っている。	3.2
	個人情報の管理体制の整備			37. 個人の情報の管理がシステムとして整備されている。	2.6				

2010年度 学校評価アンケート結果一覧表（中学部）

共通 / 独自	大項目	小項目	目標	アンケート							
				教職員用	平均点	保護者用	平均点	生徒用	平均点		
独自	保護者・地域住民との連携	(1) 学校運営についての保護者（PTA）との協力状況	PTAと協力した学校行事の運営	38. 学校は、行事などの際に、適宜PTAと協力してこれを実施している。	3.5	22. 学校は、行事などの際に、適宜PTAと協力してこれを実施している。	3.5	—	—		
			教育内容に関する保護者との意見交換	39. 学校は、教育内容に関して保護者との意見交換を行っている。	2.7	23. 学校は、教育内容に関して保護者との意見交換を行っている。	2.7				
		(2) 保護者との懇談の実施やPTAとの協議会の運営状況	PTA幹事会等の適切な開催	40. 学校は、PTA幹事会等、PTAとの協議会を適切に開催している。	3.3	24. 学校は、PTA幹事会等、PTAとの協議会を適切に開催している。	3.3	—	—		
			クラス担任と保護者との面談の実施	41. 学校は、クラス担任と保護者との面談を必要に応じて適切に行っている。	3.2	25. 学校は、クラス担任と保護者との面談を必要に応じて適切に行っている。	3.0				
			クラス・クラブ・委員会等の保護者との懇談の実施	42. 学校は、クラス・クラブ・委員会等の保護者との懇談を必要に応じて適切に行っている。	3.3	26. 学校は、クラス・クラブ・委員会等の保護者との懇談を必要に応じて適切に行っている。	2.9				
		(3) 地域住民から寄せられた意見や要望の把握・対応状況	地域住民からの意見の把握	43. 学校、は地域住民からの意見を的確に把握している。	2.8	—	—	—	—		
			地域の声の生徒への伝達	44. 学校は、地域住民からの声を適宜生徒へ伝達している。	3.1	27. 学校は、地域住民からの声を適宜生徒へ伝達している。	3.0			20. 学校は、地域住民からの声を状況に応じて適切に生徒へ伝達している。	3.4
			迅速適切な地域住民の苦情等への対応	45. 地域住民から学校への苦情などがあつた場合、適切な生徒指導を行っている。	3.4	28. 学校は、地域住民から苦情などがあつた場合、適切な生徒指導を行っている。	3.2			21. 学校は、地域住民から苦情などがあつた場合、適切な生徒指導を行っている。	3.4
		独自	キリスト教主義教育の実践	(1) キリスト教主義教育の理念の共有	教員間でのキリスト教主義教育の理念の共有	46. 教員間でキリスト教主義教育の理念を共有している。	3.3	—	—	22. 日々の学校生活からキリスト教の精神が伝わってくる。	3.1
					キリスト教主義的人間理解を基にした日々の教育活動	47. 教員は、キリスト教主義的人間理解を基にした日々の教育活動を適切に行っている。	3.2	—	—		
教員がキリスト教主義教育への理解を深めることができる環境の整備	48. 学校は、教員がキリスト教主義教育への理解を深めることができる環境を整備している。				3.2	—	—				
(2) キリスト教主義教育の推進	学校の重要な柱としての礼拝の遵守			49. 学校は、礼拝を重要な柱として守っている。	3.7	29. 学校は、キリスト教主義教育を適切に行っている。	3.5	22. 日々の学校生活からキリスト教の精神が伝わってくる。	3.1		
	生徒のキリスト教的人間理解を育成するためのプログラムの実施			50. 学校は、生徒のキリスト教主義的人間理解を育成するためのプログラムを適切に実施している。	3.4					23. キリスト教に関する理解が深まっている。	3.0
	生徒に対する教会出席の奨励			51. 学校は、生徒に教会出席を奨励している。	3.0						

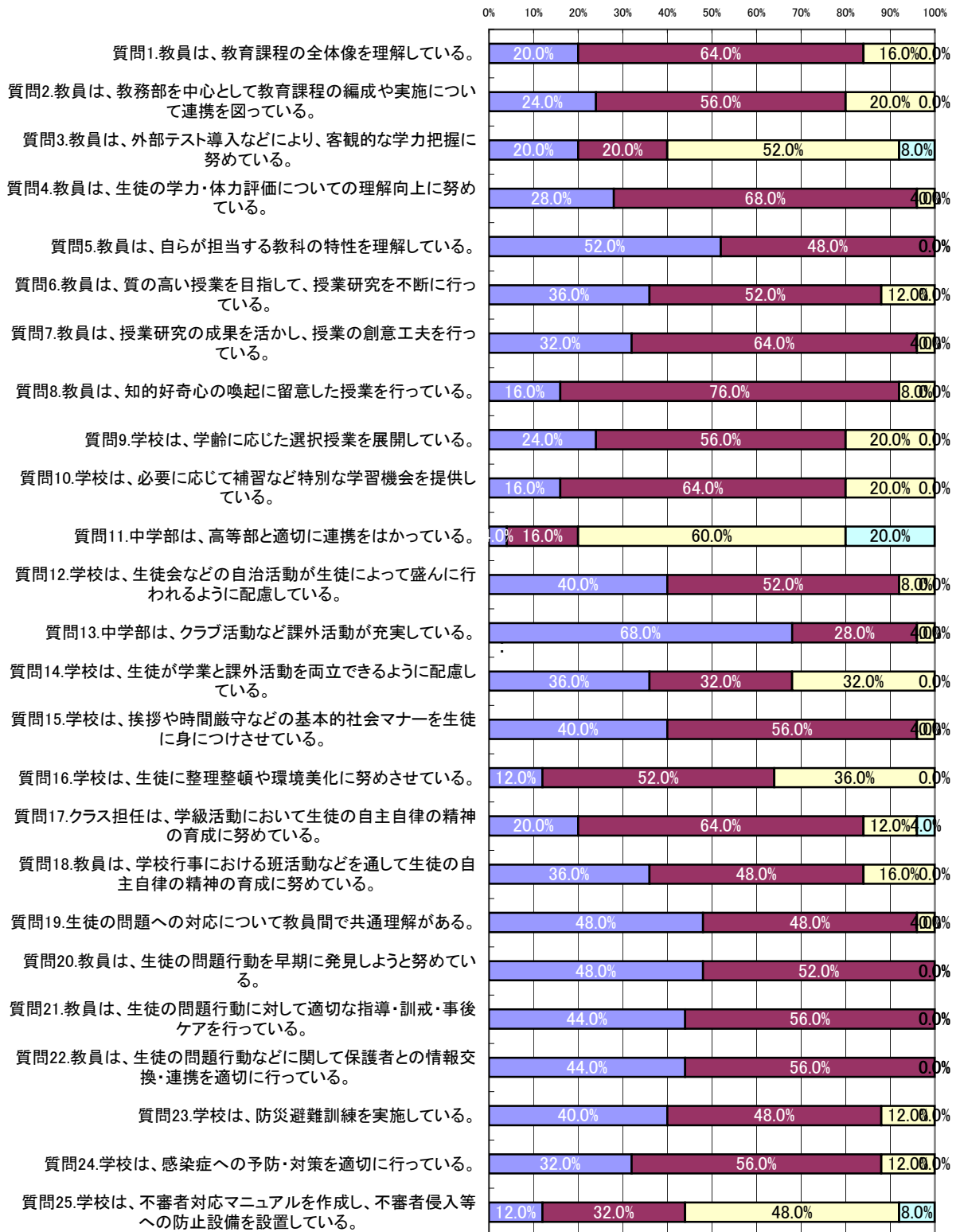
2010年度 学校評価アンケート結果一覧表（中学部）

共通 / 独自	大項目	小項目	目標	アンケート				
				教職員用	平均点	保護者用	平均点	生徒用
独自	(3) キリスト教関係諸団体との連携	教会などキリスト教関係諸団体からの礼拝奨励者の招聘	52. 学校は、教会などキリスト教関係諸団体から礼拝の奨励者を招いている。	3.3	30. 学校は、献金や募金を通してキリスト教主義教育に基づいた奉仕を実践している。	3.4	24. 礼拝では学外の様々な人の話を聴くことができる。	3.4
			53. 学校は、教会などのキリスト教関係諸団体を通じて礼拝席上献金を広く献げている。	3.2			25. 礼拝で集められた献金は世の中の困っている人々に広く用いられている。	3.1
		キリスト教諸団体との種々の連携	54. 学校は、キリスト教諸団体と種々の連携を図っている。	2.9		—	—	—
	(1) 読書・図書館教育	読書生活の推進と実態把握	55. 学校は、読書生活の推進と実態把握を適切に行っている。	3.6	32. 学校は、図書館を活用した総合的な学習や行事を展開している。	3.4	26. 学校生活を通じて読書に親しみ、図書館をよく利用している。	3.1
			56. 学校は、図書館を活用した総合的・教科横断的な学習活動を展開している。	3.5				
		読書・図書館教育に特化した学校行事の実施	57. 学校は、読書・図書館教育に特化した学校行事を実施している。	3.6		27. 読書に関する学校行事が充実している。	3.2	
	(2) 英語・国際理解教育	英語教育を通しての、世界への視野の拡大	58. 学校は、英語教育を通して、生徒の関心が世界へ広がるように努めている。	3.2	33. 学校は、生徒が英語に触れる機会を増やし、英語が好きになる学習活動を展開している。	2.7	28. 将来、英語を使って世界の人々と交流してみたいと思う。	2.7
			59. 学校は、英語教育を通して、生徒のこぼへの意識を向上させ言語運用能力を適切に育成している。	3.2				
		国際理解の感性育成のためのプログラムの実施	60. 学校は、国際理解の感性を育成するためのプログラムを適切に実施している。	3.0		35. 学校は、海外との相互交流や外国人教員を通して、生徒の国際理解の育成に努めている。	2.9	30. 海外との相互交流や外国人教員を通して、異文化に興味をもった。
	(3) 芸術教育	音楽・美術を中心とした芸術教育による児童生徒の豊かな感性の育成	61. 学校は、音楽・美術を中心とした芸術教育により生徒の豊かな感性を育成している。	3.2	36. 学校は、音楽・美術を中心とした芸術教育により、生徒の感性と表現力を育成している。	2.9	31. 音楽・美術などの芸術活動を通して、表現する楽しさを味わい、豊かな心が育っている。	2.6
			62. 学校は、音楽・美術を中心とした芸術教育により生徒の自己表現能力を育成している。	3.2				
		芸術活動に特化した学校行事の実施	63. 学校は、芸術活動に特化した学校行事を適切に実施している。	3.3		37. 学校では芸術活動に特化した学校行事（合唱コンクールや美術展など）が充実している。	3.2	32. 学校では合唱コンクールや美術展など芸術関係の行事が充実している。
	(4) 体育教育	充実した体育教育による児童生徒の心身の健全な発達	64. 学校は、充実した体育教育により生徒の心身の健全な発達を図っている。	3.6	38. 学校は、体育教育などにより生徒の心身の健全な発達を促している。	3.4	33. 体育の授業などにより心身が鍛えられている。	3.0
			体育に特化した学校行事の実施	65. 学校は、体育に特化した学校行事を実施している。				

2010年度 学校評価アンケート結果一覧表（中学部）

共通 / 独自	大項目	小項目	目標	アンケート					
				教職員用	平均点	保護者用	平均点	生徒用	平均点
	(5) キャンプ・体験的学習	キャンプ・体験的学習の、教員全員・学校全体による実施	66. 学校は、キャンプ・体験的学習を、教員全員・学校全体で実施している。	3.6	40. 学校は、キャンプや体験的学習を丁寧に準備・実施している。	3.6	35. キャンプや体験的学習が学校全体で丁寧に準備され実施されている。	3.4	
		キャンプ・体験的学習の、定期的な反省・評価による不断の質的向上	67. 学校は、キャンプ・体験的学習を、定期的に反省・評価して不断の質的向上を図っている。	3.4	—	—	—		
		キャンプ・体験的学習の教育的収穫の、事後的学校生活での継続的活用	68. 学校は、キャンプ・体験的学習の教育的収穫を、生徒の事後的学校生活で継続的に活用できるようにしている。	3.1	41. キャンプや体験的学習の教育的成果が、その後の生徒の学校生活で活かされている。	3.2	36. キャンプや体験的学習で学んだことを、学校生活で活かしている。	2.7	
	(6) 人権・平和教育	礼拝や講演会を通じた人権や平和に関する感性と知性の涵養	69. 学校は、礼拝や講演会により生徒の人権や平和に関する感性と知性を養っている。	3.3	42. 学校は、人権や平和に関する生徒の感性と知性を育成している。	3.2	37. 学校生活を通じて人権や平和について学ぶことが多い。	2.9	
		HR・授業・行事などを通じた人権や平和を尊重する態度の育成	70. 学校は、HR・授業・行事などを通して生徒の人権や平和を尊重する態度を育てている。	2.9			—	—	
		人権・平和関係諸団体との連携	71. 学校は、人権・平和関係諸団体との連携を適切に図っている。	2.8	—	—	—		

2010年度 学校評価アンケート集計結果
(中学部・教員 質問1～24)



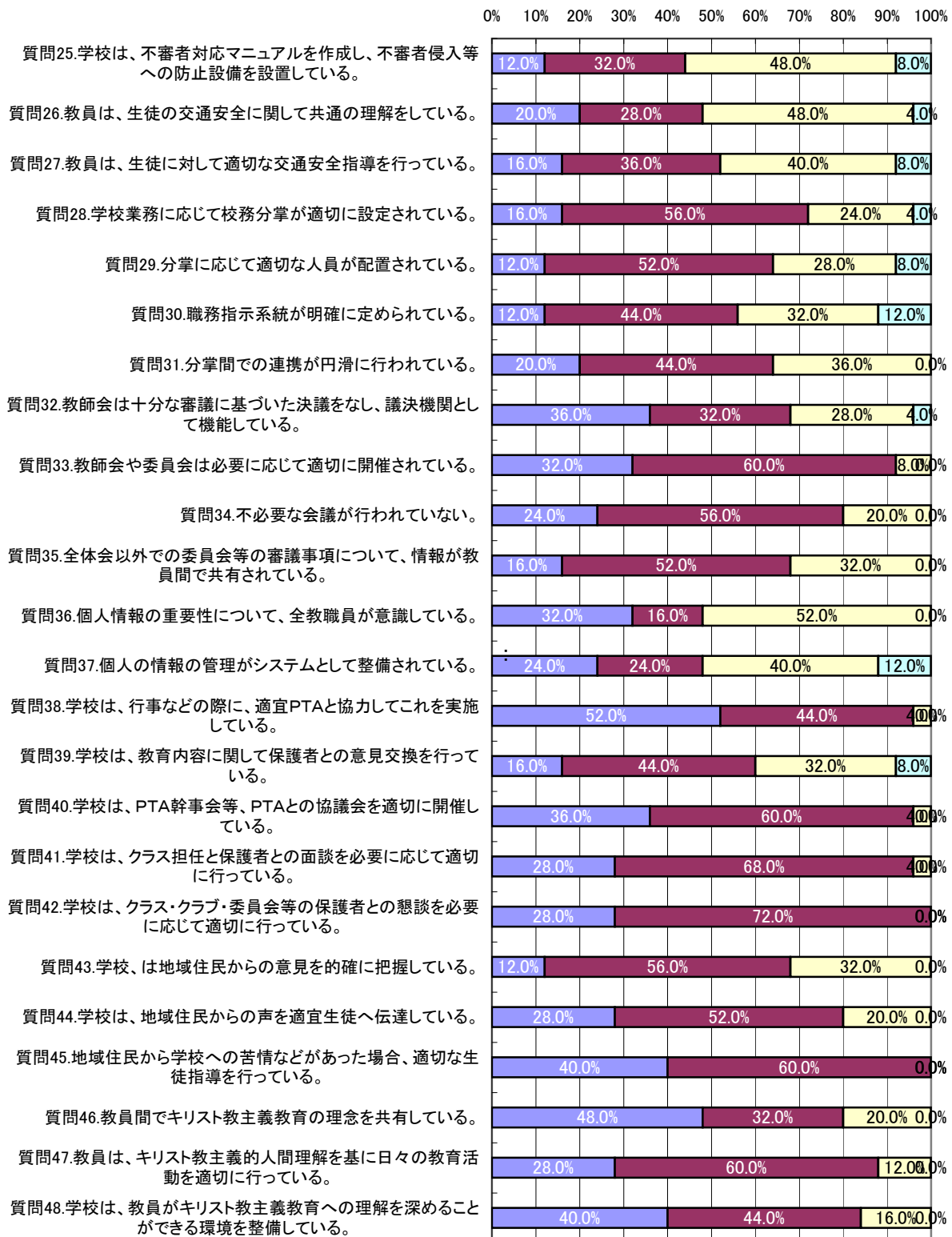
■ 回答番号1: 強く思う(4点)

■ 回答番号2: どちらかといえば思う(3点)

□ 回答番号3: あまりそう思わない(2点)

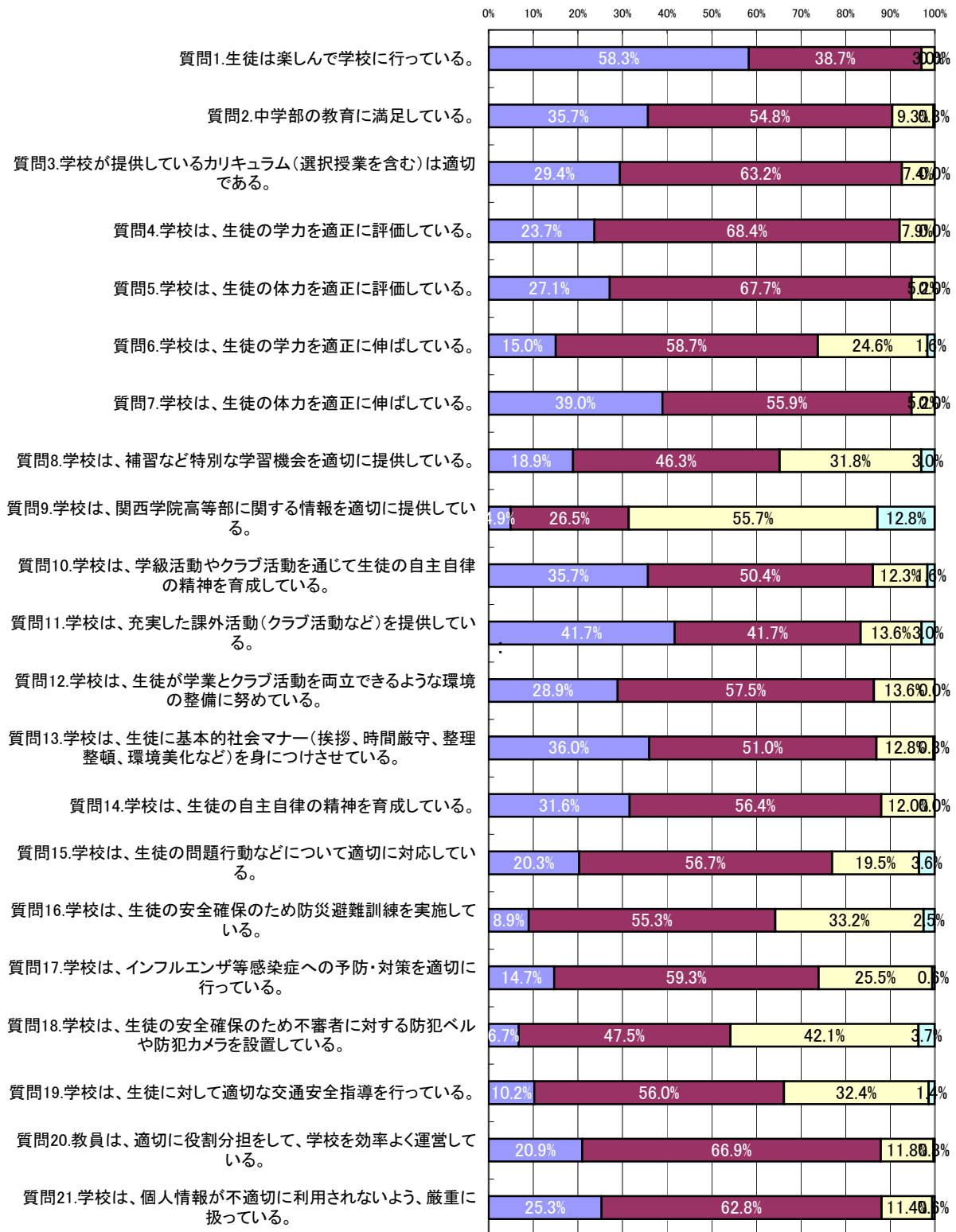
□ 回答番号4: まったくそう思わない(1点)

2010年度 学校評価アンケート集計結果
(中学部・教員 質問25～48)



回答番号1: 強く思う(4点)
 回答番号2: どちらかといえば思う(3点)
 回答番号3: あまり思わない(2点)
 回答番号4: まったく思わない(1点)

2010年度 学校評価アンケート集計結果
(中学部・保護者 質問1～21)



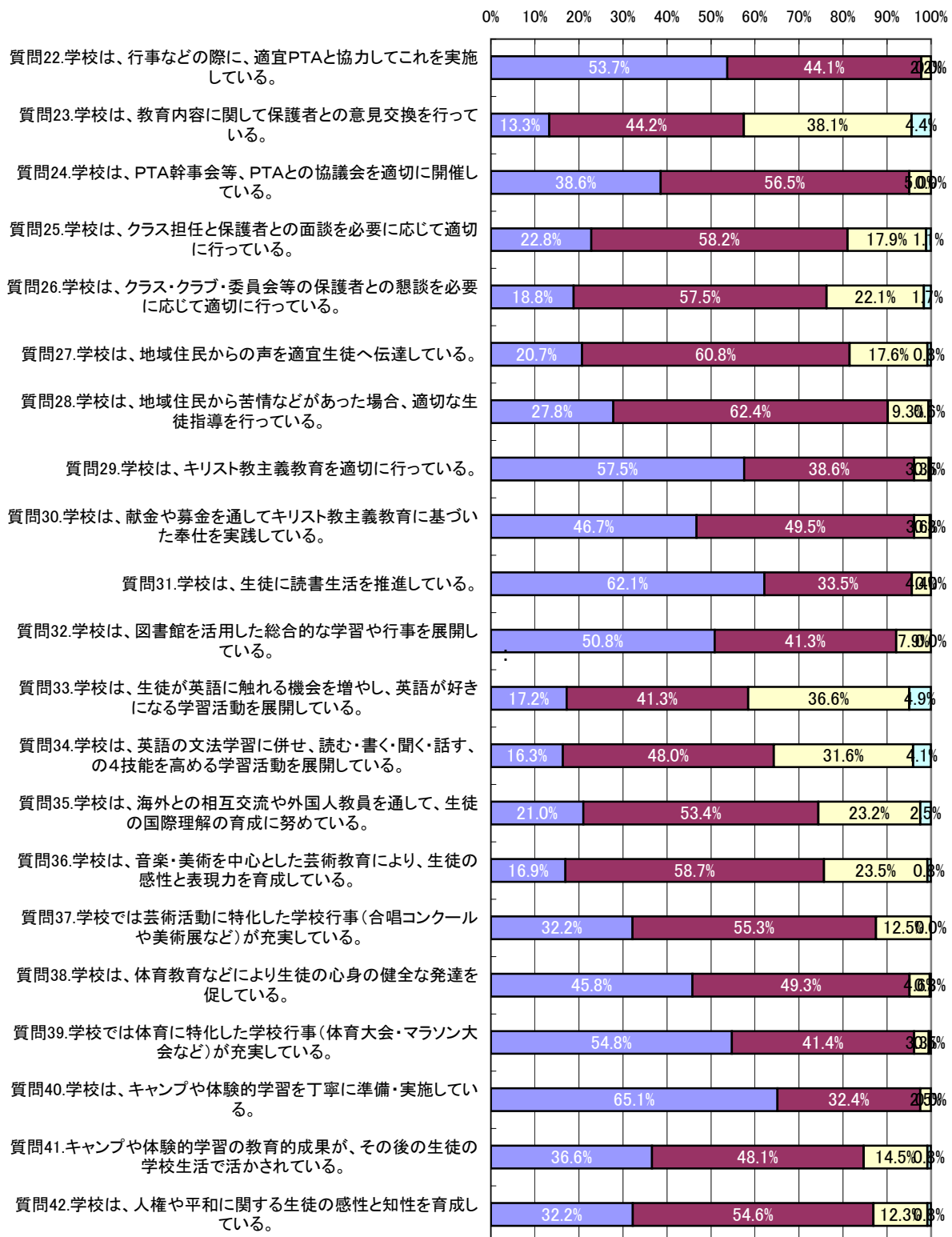
■ 回答番号1: 強く思う(4点)

■ 回答番号2: どちらかといえば思う(3点)

□ 回答番号3: あまりそう思わない(2点)

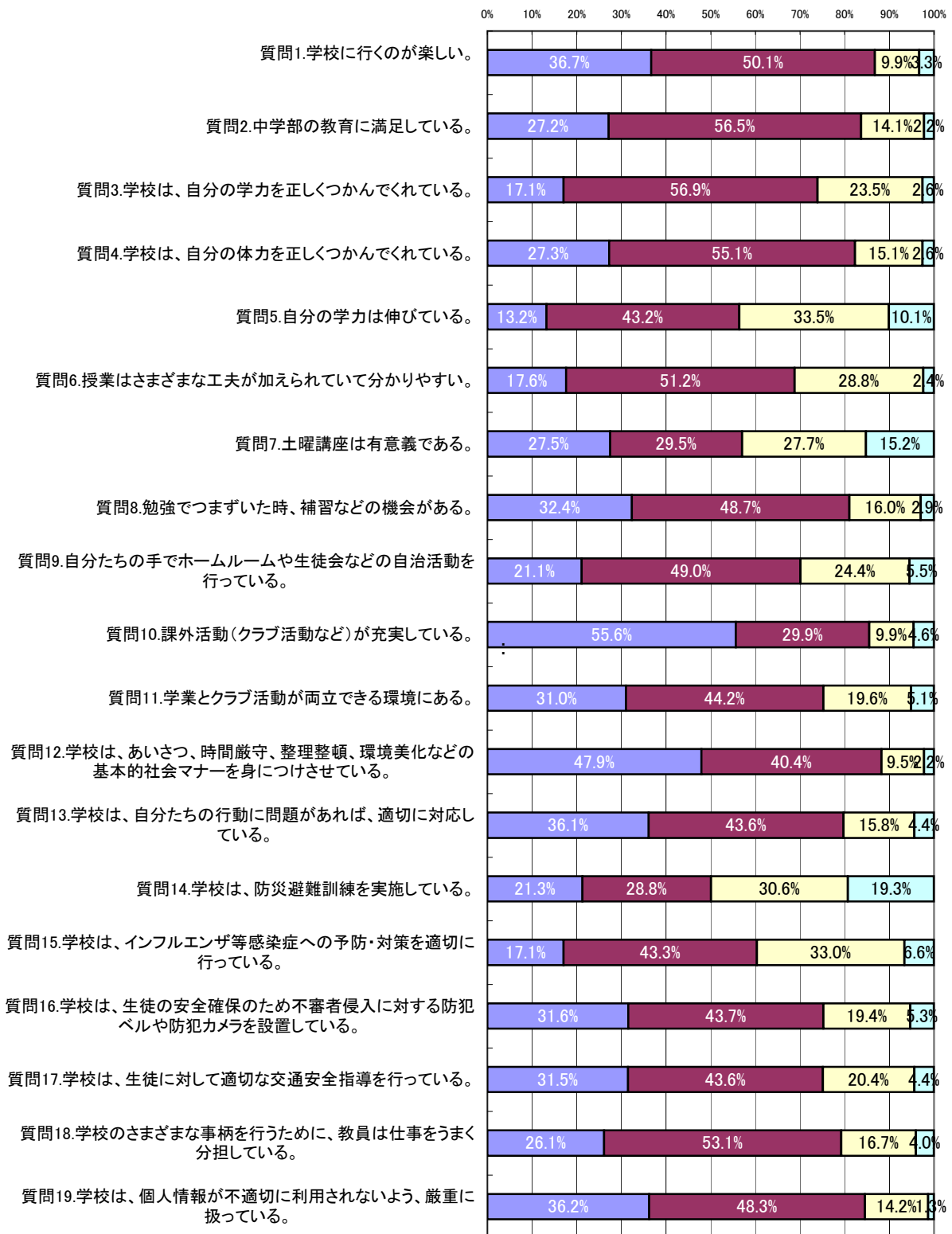
□ 回答番号4: まったくそう思わない(1点)

2010年度 学校評価アンケート集計結果
(中学部・保護者 質問22～42)



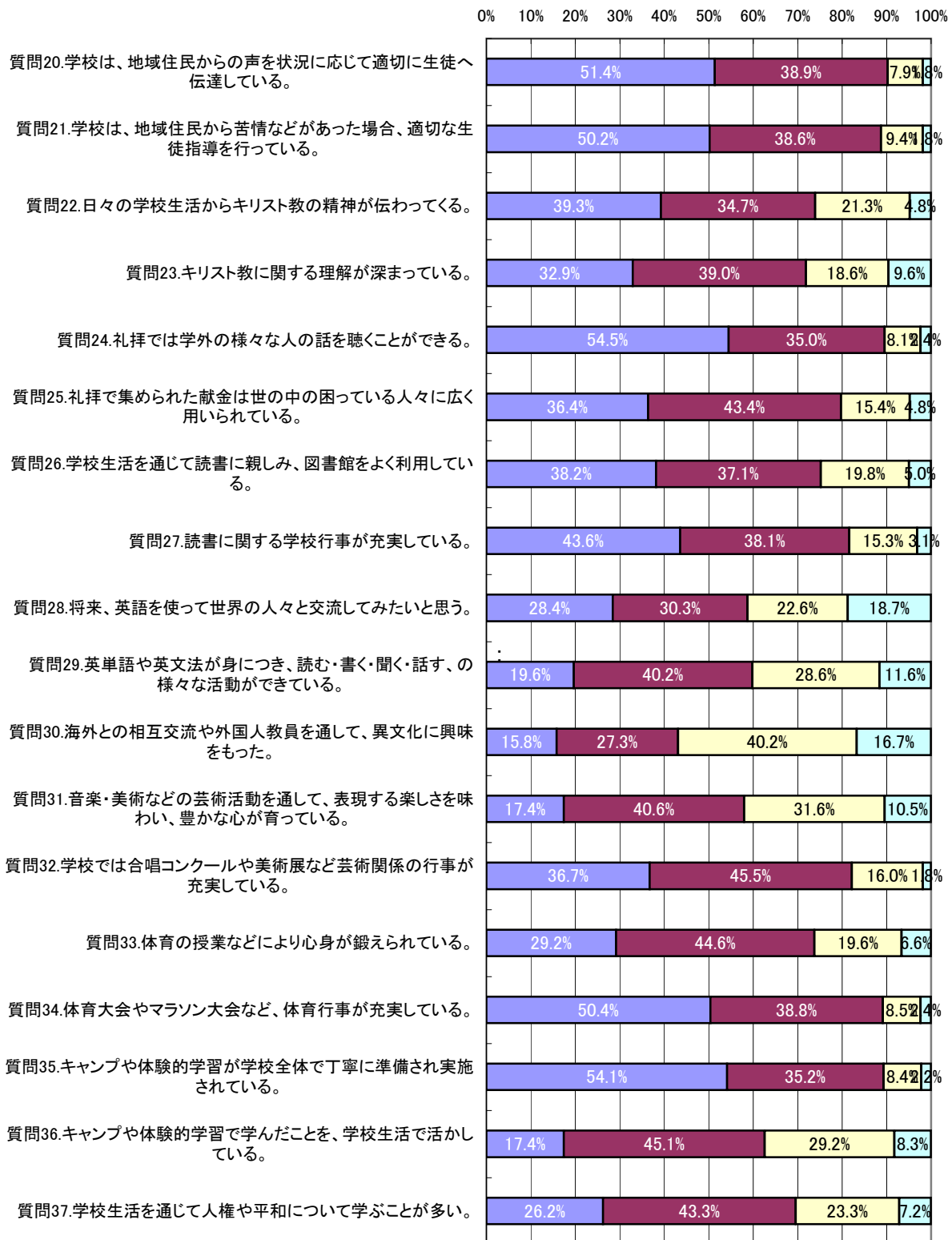
■ 回答番号1: 強く思う(4点)
 ■ 回答番号2: どちらかといえば思う(3点)
 ■ 回答番号3: あまりそう思わない(2点)
 ■ 回答番号4: まったくそう思わない(1点)

2010年度 学校評価アンケート集計結果
(中学部・生徒 質問1～19)



回答番号1: 強く思う(4点)
 回答番号2: どちらかといえば思う(3点)
 回答番号3: あまりそう思わない(2点)
 回答番号4: まったくそう思わない(1点)

2010年度 学校評価アンケート集計結果
(中学部・生徒 質問20～37)



回答番号1: 強く思う(4点)
 回答番号2: どちらかといえば思う(3点)
 回答番号3: あまりそう思わない(2点)
 回答番号4: まったく思わない(1点)